

# 感想二つ

## 菊池ふじの

歐米の模範的な幼稚園が皆そうである様に、私達のこの幼稚園も、研究室云ふものを持ち度いことは、新建築が出来てお引越した當時、みんなで思つた事だったのである。けれども、新しく出来上つた幼稚園は六萬云ふ資金が投ぜられてゐるにも拘はらず、室数は、あのバラック時代と殆んさ同じ位の數で、さうしても研究室云ふ、目の必要は、ちまかけ離れた部屋を用意出来るだけの餘裕が無いのだ。

何か研究の必要があれば、職員室の各々の机でもしてゐたし、又子供が歸つた後の自分の保育室でも出来るし、そんな事で、當座の必要は満たされて來たし、又職員室内の和やかな氣分の中で働き、そして休息をこり、慰安を得てゐた私共には、當初の念願であつた研究室の問題は、いつの間にか解消してゐた。

けれども、倉橋主事のお氣持の中では、この問題はちつとも解消としては居られなかつたのであらう。今までも時々先生のお口から、さうかして衛生室を、研究室を云ふお聲が洩れてゐた。その洩れてゐたお心持が遂に形になつて外へ現れる事になつた。即ち、今までの種々のお部屋を模様かへして新たに研究室を生み出す事になり、その工作が施されこの四月からいよく、消えつ、もたげつしてゐた研究室は生まれる事になつたのだ。

扱て、研究室には誰がは入るのだらう？と獨りで質問を試みて見た。勿論子供ではない。して見るに、實習科の生徒か、吾々職員の保母であるに決まつてゐる。學意を出てからの今までの長い年月、實社會に出て、實際的ないろいろな業務に携はつての必要から、時にはさゝやかな研究の眞似事みたいな事をしないでもなかつたのに、今、獨立し

た研究室を持たせていたゞく言ふ事になるが、何きなく面はゆい心持がしてならぬ。

さあ、その研究室開きのその日は、扱て、何の本を開いたらいふだらうか、ゆかりのその第一日に繙く本は、この本が一番似合ふだらう、ミ獨りで子供らしい考に耽つて見たのである。

幼稚園の始祖、フレーベルの著書「母ミ子の遊戯」だらうか、それさも「人の教育」だらうか、それさも「エミール」だらうか。

これ等のどの本も、細々とした點まで私を啓發してくれた事は確かだ。けれど私はその由緒ある研究室の最初の日に讀む本ミしてやはり、デュウイーの教育哲學概論を思つて見た。この本は、私が高等師範の三年の時の一夏を、この本の精讀にさゝげたものだつた。その頃まで私は、獨逸のカントやヴントに大いなる興味を持つてゐた。そして朝の默學の二時間を、他の何物をも顧みずに、カントの研究（大げさな言分だが）に捧げたものだつた。一日中の最も頭のクリーアーな時をカントに、ミ云つた肅然とした心

持で。あの難解なカントの哲學は、そうやすくミは讀みおほせなかつた。或時なき、三行の言葉の意味を了解する爲に二朝も考へつゞけた事もあつた。かうして、カントの哲學を代表する實踐理性批判、純粹理性批判は讀み終へた。この二大著書を理解する爲に、プロレゴミナ、哲學入門等ミ云ふ小著も數多涉り讀みした。かくて、カントの三大名著の一、判斷力批判に移らうミしたが、さうしても邦譯が見つからない。文獻では邦譯がある事になつてゐた。いくら神田の本屋を軒竝に覗いて見ても見つからない。さうこうして遂に、カントの「美」に對しての意見には未だに接しないでしまつてゐる。今、たミへその本が手には入つたにしても、あの難解なカントの文章は今頃果して了解出来るだらうかミ、自らいふからざるを得ない。

この頃、カントミ一緒にヴントの心理學も讀んで見た。分析的なこの構成主義の心理學に、カントの哲學ミ共通な或るものを感じないでは居られなかつた。これミ對照的に英國の經驗派の哲學も、氣の向かないのを、引き立てなが

ら之も勉強の爲に思つて、多少は開いて見た。けれども私には、さうしても經驗派のものには、心から好きにはなれなかつた。哲學に「好き」等云ふ言葉は許されるべきではないのであらう。私の踏み入つた哲學の分野は、實に「好き」云ふ言葉を用ゐて丁度似合ふ位のごく入口で、私は決して哲學したのではなかつたと思つてゐる。倉橋教授の教育の時間であつた。いろ／＼のお話の中に、「カントを感情を以つて讀む」云ふ様の事を言はれた事があつた。私はこのお言葉を伺つた時、私等實にそうださ心中の中で、大きく頷いたのを今でもはつきりと思ひ出す。あのカテゴリヒ、インペラティブ（無上命令）の言葉は、あの頃の私の胸に、みんなにみんなに嚴肅にひびいた事であつたらう。

けれど、内に顧みて、カントにしてもヴントにしても、一人の人間の精神活動が、かくも分析的に働くものだらうか、少しづつ疑問を持ち始めて來た。この時、さういふ手引きでは入つたのか、今はその經過がはつきり思ひ出せないのであるが、英國の經驗派に、獨逸の分析的の丁度折衷

とも見るべきアメリカの哲學に、目を移したのであつた。ドイツの分析的に、飽き足りなさを感じてゐた自分に、アメリカの、言つても、主にジョン・デューウイーの哲學は、誠に心からのよろこびに共鳴を持たないでは居られなかつた。それで、デューウイーのものは見つかつた（勿論邦譯のもの）に讀んだものであつた。唯か朝永云ふ方が「三譯して居られた様に思ふ。買ひ求めて、自分の書棚に飾つてあつたこれ等の書は、あの關東の大震災で跡方もなく焼けてしまつて、私の雛形みたいな書棚も之を機會にすつかり空っぽになつてしまつたわけである。他日、私が親にねだらずに獨りで求められる様になつた時、若き日の記念に思つて、カントのもの三種程、ケール博士のもの、ヴントの心理學、等の本と一緒にデューウイーの本もと思つて街の本屋をあさつたけれど、デューウイーの邦譯は殆んど見當らず、私の書棚には今デューウイーのものにては、教育哲學概論一冊あるのみである。

私が、ゆかりある第一目目に、研究室で讀み度いと思ふと言つたのは、實にこの「教育哲學概論」(帆足理一郎氏譯

で、私にきつて、學問的な本の中で之程感銘の深かつた本はなかつたと思ふ。いろ／＼な考へ方、就中歴史等の考へ方は誠に面白いと感じられて、幾度も幾度も翫味したのをおぼえてゐる。自分が學問としての教育と言ふ事に、進んで興味を持ち、曲りなりにも理解出来ると思つてゐるのは

（自惚れてゐるのかも知れない）。この書に負ふ所が多いと思つてゐる。倉橋先生が外國からお歸りになつた最初のお講

義を伺つたのは私共のクラスであつたが、先生の最新のあの教育學を、心からの悦びをもつて、待ちこがれて、伺ふ事が出来たのも、本書によつてその素地が作られてあつたからだ。爾來もう十五年餘を経て居る。この間、保姆として又母としての重荷があり、若い日の時の様に讀書三昧の境地に居られない自分は、時折の教育界に心して、曰く最新教育思潮、最新教育學、或は新教育等の語に注意する事を怠らなかつた。そして是等を読み、又は聽講する事によつて、辛うじて、その時々々の教育思想云ふものにおくれまいと心して來た。併し、是等を讀んで見て、聽いて見て、その根本思潮の、何れもデウウィーのそれより一步も出て

るない事を確めて、自分はまた、世の最新教育思想なるものが理解出来ない程、老いぼれても居ないのだと意を強うした事であつた。

この度、研究室と言ふ事から、思はずも、自分の過去の讀書生活のいろ／＼が回想せられたわけであつた。

之をものしながら、傍の中央公論を開くこゝ、圖らずも志賀直哉氏の「青臭帖」の

「過去を語る興味も面白くない。氣の利いた人間のする事ではない。聞きづらい事である。これもやめよう。」

と言ふ言葉がづきん胸を打つた。誠にさうである。併し稿を改めるにはもう時日が無い。止むを得ず、これにて今月の責を果さしていたゞく。多謝、々々。

この頃、人形芝居の方をすつかりお怠けしてしまつて、誠に意氣地が無いと、自分で自分を責めてゐる。人形座の總師の倉橋主事からも、時にチクリとやられる事があつていたいと感じる事もある。それか云つて、子供に人形芝居をちつとも見せてやらないのかと云ふに、そうではな

い。子供達は人形のあり場所を心得て、年中そこから持ち出しては盛にやつてゐるし、實習科の生徒も始終やつてゐるし、私達も時たま演じてゐる。それなのに自責の念にかられる。云ふのは、自分で考へて見るに、その後ちつとも新しい脚本を考へないからなのである。考へないのではない、二、三脚本化しかけのものもあるのであるが、それが完成するまでになつてゐないのである。

今思ふに、一つの人形芝居を、先づ脚本を拵へて、それから、人形を手作りして、衣裳も道具も作つてそれを上演する事は容易な事ではないと思ふ。それが、熱云はふか、インスピレーション云はふか、そんなものが乗りうつゝて来るに、いさ易々出来てしまふのであるが、今はなかなかそれがやつて來ない。

併しそうなるには、やはり前提として、それだけの事がなければならぬと思ふ。それだけの事云ふのは、やはり、かなり時間的の餘裕があつて、暇にまかせてそんな事をじっくり考へめぐらすのである。そして腹の中で或る構圖が出来上つた頃、うまい工合にインスピレーションが湧

いてくれるに誠が工合がいゝのである。その熱にまかせて一氣呵成に、人形も衣裳も作り上げて上演云ふ所まで運ぶのである。

こんな事を獨りかこつてゐた折も折、過ぐる三月の二十三日、私共の幼稚園の保育修了の日に内山憲堂先生に御願して人形芝居を見せていたゞいた。

一つは指遣ひで、舌切雀の出しもの、流石に感じ入りながら拜見してゐた。も一つの方は手遣ひで、猿盤合戦の出しもの、これの方は文樂式のま伺つては居たけれど、あの精巧な文樂の人形の仕掛けを、さの程度にお取り入れになつたものか。期待を持つて待つてゐた。いよく實際に拜見して一層驚いた。之は何も程のよい事よ。人形の大きさも丁度よいし、人形の動きも誠によい。バックには黒布を張つて、演ずる人もみんな頭から足まで黒布を着るだけの事。舞臺の前の方は、子供の椅子をずらり横に並べてそれに黒布又は類似を掛けるのみ。これを見た殺那、これはいゝ心の中で叫んだ。子供等も、知り切つた、見馴れた猿盤合戦であるのに、一人残らず吸収されつくしてカタ

リも音させぬ静けさ。

あの栗ミ蜂ミ白ミが相談して、猿をこらしめに猿の家に  
出かけ様ミするあたり、子供達は雀躍して喊聲を揚げる有  
様に、多血質の私は、すぐ又やつて見たいなミ心に思つた。

先生の方も次のお仕事でお急ぎの様だつたし、私共も修

## 禮（お辭儀）

氏 原 鏡

禮に座禮ミ立禮ミありますが、其作法態度の如何  
により其人柄の程がうかがはれる様に思はれ、其禮の  
仕方にも人により頭を下げるに低きあり、高きあり、其  
流儀は一様ではありませんが、婦人は低流の方が女ら  
しく床しく感ぜられ、高流は男子に適する様に思はれ  
ますが、皆様は御自分のなさる禮の仕方に付て何かお  
考へになつてお出でせうか。幾ら敬意を表する心構へ  
の禮も其態度の如何によつて其對者に好感をせられぬ  
場合がありはしませんでせうか。殊に初對面の時に此  
人は温厚でないらしい、さうも行き過ぎ者らしいなさ  
ミ見られたミすれば、之れが例へ一時的の推測しして  
も不利の立場ではありませんか。

昔からの言にあの人は頭が高いミて其横柄の態度を

了する子供ミ父兄ミをかゝへてあわたゞしかつたので、人  
形の仕掛等細々ミ拜見する機會を遂ぞ逸してしまつて、誠  
に残念に堪えない次第ではあるが、あゝゆうものを保婦の  
手で、屢々見せてやれたら、こちらも満足、子供も仕合せ  
だらうミつくぐ思つた。

嫌はれあの人は腰が低いミて親まれるミ、此語の社交  
上大に味ふべきことではありませんか。吾人は其接す  
る人に對し不快の感を與へぬ様親まれる様心懸けねば  
ならぬミ思ひます。尙在職地の風俗習慣の上にも配慮  
を要するものミ思はれます。嘗て私の在職地の一般に  
腰低く上流の人さへも頭の下げ方低く之れに對し度々  
顔負け失敗致しました。爾來之れに注意して座禮には  
臂を張らぬ様に両手を疊の上に揃へ頭部を其上に置き  
間のすかない様に對して敬意を表し、立禮には両手を揃  
へて膝頭の下の方に置き敬意を表する禮を致しました。  
以上は甚失禮では御座いますが近頃頭の低くない方々  
を見まして、幾ら學識を備へられても處世の上にも不利  
ならむミ残念の餘り申述べました。